

## 網膜芽細胞腫

子どもの眼が白く光ったら



徳島大学大学院  
医歯薬研究部  
眼科学分野 講師  
しのみや かのよ  
四宮 加容氏

網膜芽細胞腫と

いう子どもに特有の

眼の「がん」があります。発生頻度は15,000人に1人で、日本では年間80人が発症しています。起りやすい年齢は0歳から5歳です。ものを見るのに大切な網膜から発生し視力低下を引き起こしますが、小さいお子さんは自分で見えにくいとは言えません。早期発見のためには周りの大人が症状に気づくことが重要です。発見のきっかけは、写真を撮った時などに眼の中が白く光る「白色瞳孔」や左右の視線がずれている「斜視」です。網膜芽細胞腫は進行すると眼の中で大きくなり、視神経を伝わって脳に広がったり、全身に転移したりします。がんが眼の中にあるうちに治療できれば、9割以上の確率で命を助けることができます。

5歳以下の子どもに「眼が白く光る」「視線がずれている」という症状があれば、早めに眼科を受診しましょう。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ がん診療連携センター: Tel.088-633-7312  
<http://www.tokudai-ganrenkei.jp>



がん相談支援センター

相談窓口 Tel.088-633-9438

徳島がん対策センター

<http://www.toku-gantaisaku.jp>